

笑顔輝く大津の教育

～自信は誇りに、そして、人生の宝物に～

教育長 島崎 輝久

With コロナとは言いながら、今年も新型コロナウイルス感染症第7波に猛暑、ゲリラ豪雨と、開放感には程遠い夏になりました。そんな中、甲子園で躍動した滋賀代表の近江高校。惜しくも全国制覇とはなりませんでした。持てる力を存分に出し切った高校球児の姿に、熱い思いと活力をもらったと感じているのは私だけでしょうか。

かつて、高校男子バスケットボール界に、昭和40年代～平成20年頃まで「必勝不敗」を合言葉に、全国大会優勝58回を数えた、秋田県の「能代（のしろ）工業高等学校」がありました。最近、留学生が在籍する学校などが強くなり、名前を聞く機会も減って、2021年4月からは統合で学校名も変わったようですが、30歳位から上の世代のバスケットボール経験者なら、誰もが憧れた伝説的な学校です。

近江高校の活躍に導かれるように、私の脳裏には、随分前に拝聴した元監督・加藤廣志先生（常勝の土台を築かれ33回の優勝を達成、同校で教頭、校長も歴任、2018年ご逝去）のお話が鮮明によみがえり、その中にたいへん印象的な一節があるので紹介します。

ある年のインターハイ（高校総体）の直前、能代工では、大会前恒例となっている重要な背番号の発表がありました。これほどの強豪校ですから、先輩・後輩は関係なく、技術や精神力の高い選手からユニフォームがもらえ、この瞬間、15人のベンチ入りできる選手とそうでない選手が分かれるわけです。ベンチ入りできない中には3年生も数人いて、その中に3年間一度もユニフォームがもらえなかったAさんがいました。当時、能代工では、毎日6時から朝練、放課後の練習終了は21時、家に帰ると22時頃という生徒も多かったそうですが、Aさんは毎日欠かさず一番に登校して練習し、放課後は後始末を最後まで見届けて帰っていました。

背番号発表の翌日、Aさんが帰ると、いつもは遅いお父さんが、その日は晩酌をしながら上機嫌で食事をされていました。食卓を囲む中、お父さんは、必死に頑張っても試合に出ることのない息子を不憫に思われたのか、「おまえは毎日毎日努力しているのに、1回も選手になれないって悔しいやないか、もうそれぐらいにしといたらどうや。」と笑いながら話されたそうです。

それに対してAさんは、即座にこう答えました。

「お父さん、何を言うてんのや。能代が強いのは何でか知ってるか！それは、俺が毎日毎日早く行って準備する、そして後始末する。俺が能代を支えてるんや。だから能代は全国で優勝できるんやで！」と。

お父さんは、息子の逞しさに驚かれたのか、成長ぶりがよほど嬉しかったのか、思わず杯をテーブルに置いて涙ぐまれたそうです。そして、全国大会ではお父さんも一緒に観客席で応援されたとのことでした。

加藤廣志先生は、「能代工の伝統はシュートの上手さやディフェンス（守り）の強さでなく、このAさんのような気持ちが脈々とつながっていることです。」と締めくくられました。

社会情勢、環境が変化し家族の形も多様化した今、この事例がそっくり当てはまるとは思いません。しかし、子どもたちには、Aさんのように、主体的な取組を通して、たくさんの自信と誇りを心に蓄え、健やかに成長してほしいと願っています。

教育委員会としては、家庭、地域、学校の連携・協働を図りながら、時代が移っても変わらない理念『一生懸命努力した過程は「自信」となり、その自信はやがて「誇り」として心に刻まれる。そして、その誇りは月日や様々な経験を経て「人生の宝物」になる。』を大切に、子どもたちを支えていきたいと考えています。

令和4年度 夏季実施の研修の様子をお伝えします！

今年度の夏季休業期間は、「With コロナ」とは言いながらも、感染症対策を継続しながらの研修実施となりました。参加人数の制限や座席配置、マスク着用と飲食禁止等、参加者のみなさまには大変ご不便をおかけいたしましたが、「学び続ける教職員」でありたいとの願いで、当初予定どおり全28講座を開催し、のべ1509名の積極的なご参加をいただきました。一部を紹介します。

教師の心と技を磨く研修 全体研修会

講師：中山 芳一

岡山大学 准教授

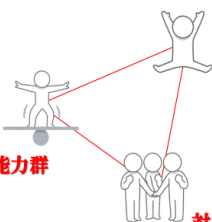
8月23日
生涯学習
センター
ホール

テーマ『生徒指導の機能を生かした授業づくり

～非認知能力の育成を目指して～』

教育現場で活用できる3つの非認知能力や、非認知能力のための教育実践ステップについて、ご講義いただきました。学校や園で育てたい子ども像を非認知能力の視点で具体化・言語化し、その能力が伸びたことが分かる行動を明確にすることで、子どもの成長に気づき、意味づけしていくことを教えていただきました。授業改善の具体にも触れていただき、新たな視点から考えることができました。

教育現場で活用できる非認知能力グループ



対自的変革・向上系能力群
自分を高める力

○意欲・向上心
○自信・自尊感情
○楽観性 ……など

対自的維持・調整系能力群

自分と向き合う力

○自制心
○忍耐力
○レジリエンス
(回復力) ……など

対他協調・協働系能力群

他者とつながる力

○コミュニケーション力
○共感性
○社交性・協調性 ……など

○受講者の感想

*教師個人の取組ではなく、学校組織としての取組が大切だということを、講義を通して理解しました。校内でこのプロセスをもって学校組織として取組を進められたら、なんと素敵な実践になるだろうと希望がもてました。

研修資料より抜粋

教師の心と技を磨く研修 2

講師：阪中 順子

奈良女子大学大学院 非常勤講師

8月18日
生涯学習
センター
ホール

テーマ『いのちを守る自殺予防教育

～今、求められる学校と教職員の役割～』

子どもを取りまく深刻な状況や、危機対応、自殺予防教育について、詳細なデータや事例をもとにご講義いただきました。子どもたちにいかに寄り添い、思いを受け止めるか、また、子どもが孤立しないよう専門機関と共にネットワークを作っていくことなど、教職員としての役割や具体的な支援方法について教えていただきました。



○受講者の感想

*子どもらの笑顔輝く毎日を目指して授業・集団・学校づくりに努めていますが、更に自殺予防の視点を明確に、職員が意識し共有できるように呼びかけたいです。「きょうしつ」(きづいて・よりそい・うけとめて・しんらいできる大人に・つたえよう)を可視化することで、子どもにSOSを出せる力をつけたいと思います。

若手教員の生徒指導力向上研修 2

講師：仲島 正教

教育サポーター バングラデシュ教育支援「国際エンゼル協会」理事

8月24日
生涯学習センターホール

テーマ『学級経営について ～教師のやり甲斐と子どもたちの笑顔～』

教職6年次までの若手教員を対象に、学級づくりについてご講義いただきました。子どもへの寄り添い方や関わり方、子ども同士をつなぐこと、授業づくりや家庭訪問について、豊富な実践事例とキーワードをもとにご講義いただきました。子どもたちへの熱い思いと教職員への温かいエールで、2学期からも頑張ろうという元気をいただくことができました。

○受講者の感想

*教育とは、人と人をつなげることなのだと改めて思いました。授業でも子ども同士をつなげる工夫や、気持ちを未来へつなげることができるので、「つなげる」ということを毎日意識しようと思います。温かい言葉をたくさん子どもたちにかけて、心の貯金を増やしていこうと思いました。



特別支援教育研修 全体研修会

講師：小野田 正利

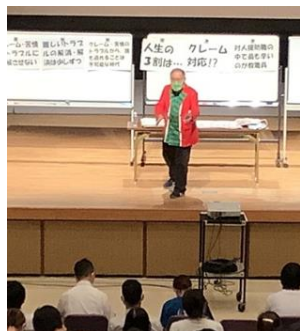
大阪大学 名誉教授

7月22日
生涯学習
センター
ホール

テーマ『保護者支援について』

※教育支援センター・子ども発達相談センター
教育センター 3課の共催

生きづらさや葛藤を抱えている保護者への対応やクレーム、苦情をトラブルにしないこと、違法行為・不当要求への対応についてまで、幅広くご講義いただきました。教職員への温かいエールやお気遣いの言葉をたくさんいただき、元気の出る時間となりました。



○受講者の感想

*保護者は対立する対象ではなく、サポーターとしてとらえ、子どものために一緒に何ができるかを考えられたらいいなと思いました。保護者にサポーターになってもらうためには、学校や学級の担任としての考えをしっかりと伝え、保護者からの声や提案もしっかり受け止めていくことが大切だと思います。心に響く言葉をたくさんいただき、とても前向きになりました。

特別支援教育研修 3

講師：久保山 茂樹

国立特別支援教育総合研究所

インクルーシブ教育システム推進センター

上席総括研究員(兼)センター長

8月19日
生涯学習
センター
ホール

テーマ『多様な学びの場における具体的な支援と指導について～「共生社会の担い手を育む」を保育・教育の合言葉に～』

共生社会の担い手を育むために保育者・教師が多様な価値観をもち、子どもの姿を肯定的に捉えること、少数派の子どもの視点で保育・教育を見直すことなどについて、豊富な研究事例とともにご講義いただきました。「1人の100歩より100人の1歩が園・学校を変える」というお言葉から、教職員がつながることの大切さをあらためて考えることができました。



○受講者の感想

*「評価のまなざし」ではなく、「共感のまなざし」が大事であるというお話から、子どもと横並びで、同じ方向から同じものを見る大切さを改めて感じました。
*少数派の子どもたちにとって学びやすく過ごしやすい環境づくりは、教師の指導力向上や授業を変えることが大切だと思いました。

初任者研修（幼・小・中）

講師：オーパル職員

オーパルオプテックス株式会社

8月4日
オーパル
(雄琴)

テーマ「地域に学ぶ」

幼稚園・小学校・中学校の初任者が、びわ湖体験活動を行いました。午前は幼・小・中の合同チームでドラゴンボートの体験を、午後はそれぞれの校種に分かれ、指導案の検討を行いました。びわ湖という素晴らしい教材から、実体験をもとに安全指導・環境学習・学級活動など様々な視点での学びについて考えることができました。



○受講者の感想

*午後の指導案作成では、「この学習でつきたい力」を初めにしっかりと考えることで、具体的に必要な活動が決まると分かりました。どの学習活動も、「何のためにするのか」を明確にしないと意味がなく、子どもに力をつけられないと思ったので、これからの授業づくりに生かしたいです。



初任者研修（小・中）

講師：滋賀大学教育学部

附属小・中学校教員

8月1日
8月2日
附属小・中

テーマ「授業づくり6」

小学校初任者・臨時講師を対象に、算数科の授業づくりについての研修を行いました。低・中・高学年に分かれて3人の附属小学校の先生方からご講義をいただき、発達段階に応じた授業の基本や指導方法の具体について学びました。



また、中学校初任者～3年次・臨時講師を対象に、教科別の研究会を行いました。実践事例を持ち寄り、附属中学校の先生方から「主体的・対話的で深い学び」の実現のための指導助言をいただきました。評価についてや思考ツール、スモールスキルなど、すぐに実践できることを学んだことが受講者の満足につながりました。

ミドルリーダー研修 1・2

第1回 「ミドルリーダーに期待すること ～その役割と活動～」

講師：高木 悟

学校支援アドバイザー

第2回 「ミドルリーダーによるカリキュラム・マネジメント」

講師：村田 耕一

瀬田小学校長

テーマ「教育活動の推進役としての自覚をもつとともに、学校改善に向けた実践力の向上」

※今年度の受講生は、小学校9名、中学校3名、計12名。

一年間を通して、個人研究やステージ研修での研修講師としての取組など、学校内のみならず、大津市全体におけるリーダーシップの向上を目指します。



★2学期は、教育センターや市内小・中学校を会場に、初任者を対象としたミドルリーダー研修受講生による講義や授業公開を実施し、初任者・ミドルが共に研修に取り組み、学びを深めています。

★9月には初任者研修で、「2学期からの学級経営について」と題して、ミドルリーダーが講師となって講義をし、学級経営について見直す機会としました。

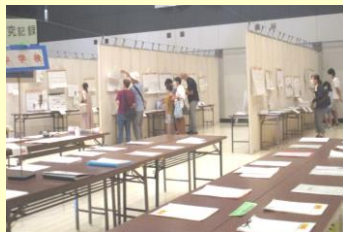


第73回

大津市児童生徒科学作品展並びに 発明工夫作品展を開催しました。

9月10日(土)～11日(日)、大津市生涯学習センターにて開催しました。市内小・中学校から、科学作品166点、発明工夫作品22点が出品されました。子どもたちが一生懸命取り組んだ作品はどれも力作ぞろい、会場に訪れた人たちは、一つの作品を丁寧に見ておられました。

この作品展が子どもたちの科学的な探究心の高まりにつながる機会になればと願っています。



若手教員育成学校園訪問 ご活用ください！

校園からの要請に応じて実施しています。

目的：市内の若手教員の教師力向上。より確かな保育・授業づくり、学級づくりを目指します。

対象：幼稚園、小学校、中学校教員

経験年数2～5年次

前期は24校園、延べ48名の先生方について訪問しました。保育や授業を参観する中で指導内容や指導方法について助言及び相談を行い、若い先生方を支援しています。

学校園訪問の要請は年間を通して受け付けています。また複数回の訪問要請にも応じています。ぜひ、後期もご活用ください。

ちょっぴり
ほっこり
エピソード

大津のキラリ☆みつけた

★研修前の受付付近の様子です。

「こんにちは。」「お久しぶりです。」「お元気ですか。」「またお願いします。」など気持ちのよい挨拶をされている先生がいます。挨拶がきっかけになって、会話が始まり、笑顔で心の交流が深まっています。

★研修中の一コマです。

全員で話し合う場面で、一人の先生が自分の取組を発表すると多くの先生から自然に拍手がわきおこります。よさを認め、共感し合える仲間です。

★研修後のことです。

机やいすの片づけを進んで手伝ってくださる先生がいます。ボランティアの輪は、どんどん広がっていく間に片付けが終わります。

これらの姿には、子どもたちに育てたい人間性を感じます。また、毎日の学校生活や授業の始まりから終わりまでに大切にしたいこととも関係があるようです。きっと学校園でも先生たちが、自らの姿で子どもたちに教育されているのだらうと思います。

お役立ち情報

【笑顔輝く大津の教育を目指して】 STEP2【子どもの学びと人間関係を深めよう】

- ゴールをイメージした学習過程を大切にしよう
- 授業の中でこそ、個の人間性と集団力を育てよう
を実践するために…

教師用 iPad の活用

小学校に配置されている教師用iPadには、小学校3・4年生が社会科で使用する副読本「わたしたちの大津」に関連したアイコンがあります。こちらでは、副読本のPDF版を見ることができ、さらに教材として活用できる画像や動画がたくさん掲載されています。

是非授業づくりにご活用ください。



副読本のPDF版が表示されます



教材となる動画が選べます



貸出図書の利用

教育センターでは授業づくりや、園児・児童生徒支援に役立つ図書を貸し出しています。

※詳細は教育センター《TEL077-522-1910》まで

板書シリーズ

板書で見る

全単元・全時間
の授業の全て

（算数・国語・理科・社会・道徳）



新学習指導要領対応

授業 DVD 付き

東洋館出版社

板書に困っていませんか？そんなときヒントとなる一冊

授業の大切な要素「板書」

どの授業においても大切な役割を果たしているのが板書です。板書は、効果的に活用することによって、思考の流れを可視化することができたり、児童生徒の思考力や表現力を育てたり、共に学ぶよさを感じさせたりすることができます。そして子どもたちがノートに書くための視覚支援となります。また、授業を通して構成された板書は、授業で何を学ばせるのか教師自身が内容を構造的に整理したり、自分の授業を振り返ったりする大事な資料となります。

この本では 算数、国語、理科、社会、道徳の各学年の全単元 を例示してあります。

若手教員の皆さん、ぜひ参考にしてください。